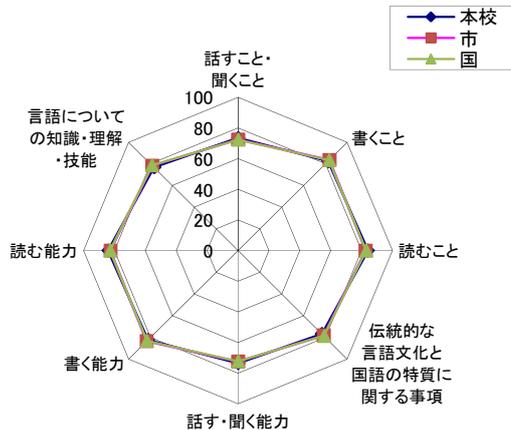


宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

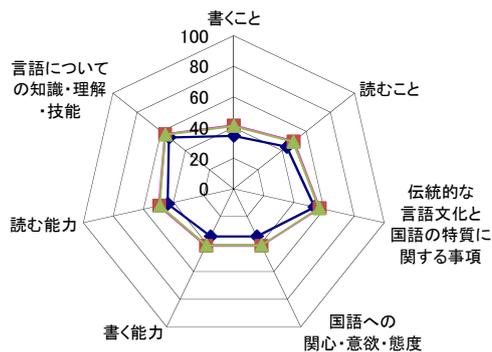
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.5	72.5	72.3
	書くこと	82.5	83.7	83.4
	読むこと	84.1	82.6	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.8	78.4	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.5	72.5	72.3
	書く能力	82.5	83.7	83.4
	読む能力	84.1	82.6	82.9
	言語についての知識・理解・技能	76.8	78.4	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	34.5	41.3	41.0
	読むこと	43.9	49.6	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.7	57.0	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	34.5	41.3	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	34.5	41.3	41.0
	読む能力	43.9	49.6	49.2
	言語についての知識・理解・技能	53.7	57.0	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

--

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

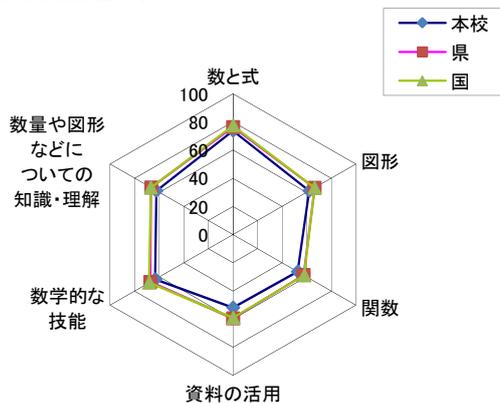
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○ 国語Aのみの観点であったが、県の平均よりも1ポイント高かった。個別の設問について比較しても、おおむね県の平均よりも正答率は高かった。</p> <p>● 「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす」という設問では、県の平均よりも8.7ポイント低かった。</p>	<p>・話すこと・聞くことの領域の指導では、実際の活動が大切であるとする。自分の思ったことを論理的に話せるよう、トレーニングを引き続き積ませたい。</p> <p>・役割分担をしたうえでの話し合い活動をもっと取り入れていきたい。その際、「いい話し合い」は「いい司会」なしには成り立たないということを伝え、司会はどういう立ち回りをすれば活発な話し合いになるか、具体的に伝えたい。</p>
書くこと	<p>○ 設問によっては県の平均を上回るものもあった。</p> <p>● 全体で見ると、県の平均を国語Aでは1.2ポイント、国語Bでは6.8ポイント下回った。また、個別の設問を見てみると、「集めた材料を整理する」意図の設問が、県平均よりも6ポイント低かった。また、記述式の問題ではすべての設問で、県の平均を下回った。</p>	<p>・国語A(主として知識)の問題では、県の平均と大きな差はなかったように感じられるものの、国語B(主として活用)の問題では、大きく差をつけられてしまった。特に記述式の問題では差が顕著で、「書くこと」領域が本校生徒の弱点となってしまうことが分かる。授業においても、自分の考えを整理して書く機会を増やし、分かりやすく記述できるだけの力をつけさせたい。</p>
読むこと	<p>○ 国語Aの問題では、県の平均を1.5ポイント上回った。</p> <p>● 国語Bの問題では、県の平均を5.7ポイント下回った。各設問ごとに見ても、Bの問題では全ての項目で、県の平均より低かった。特に、解答を記述する問題では、平均して7ポイント以上差がついてしまった。</p>	<p>・左記の結果から、本校生徒の「読むこと」の力は、基本的な力はおおむね身につけていると思われるものの、それを活用する力が不十分ということが分かる。また、記述式の解答を要求する問題で差が顕著だったことから、読み取った情報を整理し、考え、それを表現することを苦手とする生徒が多いと推察される。これまで以上に読むことの基底指導を丁寧に行なっていき、上記「書くこと」の指導も、読み物単元で取り入れていきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>● 県の平均を国語Aでは3.3ポイント、国語Bでは6.8ポイント下回った。特に漢字の問題では、読みは県の平均と大差はなかったものの、書きはすべての問題で県の平均を下回った。</p>	<p>・漢字の読みや、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題では、県の平均と同等と見て取れる。問題は漢字の書きであって、定期テストにもこの傾向は顕著に見て取れる。生徒は教科書を読んだり、読書をするなど、漢字を読んだり、文脈の中で意味を捉えるトレーニングは一定量積んでいると考えられる。当然だが、漢字は書いて、何度も練習しなくては書けるようにはならない。そういった機会を授業の中で今後いっそう提供していきたい。</p>

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

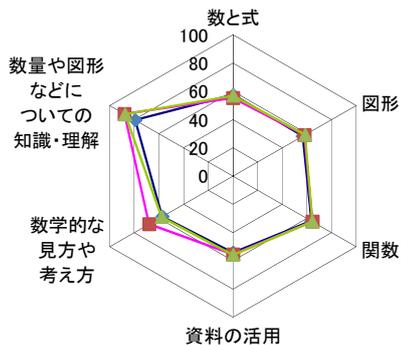
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	73.7	76.3	77.4
	図形	62.1	66.4	66.4
	関数	52.6	57.5	58.0
	資料の活用	51.9	59.5	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.3	67.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	62.3	66.7	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	57.5	55.3	56.9
	図形	56.6	58.1	58.6
	関数	63.6	64.5	64.4
	資料の活用	54.3	55.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	57.3	68.0	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	79.3	88.0	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況 ○良好なもの ●課題が見られるもの

- 「数学の」○「数学の学習内容が普段の生活で活用できないかどうか考えるか」「数学の学習内容が将来役に立つと思うか」の質問に対し、当てはまると回答した生徒の割合が、それぞれ19%、45.7%で、どちらも県平均、全国平均より5ポイント程度高い。
- 「数学Bの調査時間」に関する質問に、十分だった、ちょうどよかったと回答した生徒の割合が83.6%で、県平均より8.3ポイント高い。全く足りなかったと回答した生徒の割合も1.7%で、県平均より2.4ポイント低い。
- 「数学の授業の内容がよく分かるか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合が63.8%で、県平均より10.5ポイント低い。
- 「数学で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」「数学の公式やきまりの根拠を理解しようとしているか」の質問に対し、当てはまらない生徒の割合がそれぞれ12.1%、10.3%で、県平均より5ポイント程度高い。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Bにおいて、平均正答率が57.5%で、県平均より2.2ポイント高くなっている。これは、文字を使った事象の説明の正答率が高かったからである。 ●数学Aにおいて、平均正答率が73.7%で、県平均より2.6ポイント低くなっている。これは、方程式を解く問題に対する正答率が低かったからである。しかし、文字式不等式で表す設問の正答率は県平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始5分間を使用し、計算プリントを使ったドリル学習に取り組みさせる。 ・毎時間の問題の宿題や、単元ごとの小テストなどを通し、計算問題に取り組む機会を増やすことが重要である。 ・苦手なジャンルを克服するように学習に取り組ませていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●図形に関する平均正答率が、数学Aが56.6%で県平均より1.5ポイント低く、数学Bが62.1%で県平均より4.3ポイント低くなっている。 これは、図形の移動に関する問題と、円錐、円柱の体積に関する問題、n角形の内角の和を求める問題の平均正答率が県平均より7ポイント以上低いからである。また、証明する問題の無回答率が25.9%で、県平均より6.2ポイント高い。 ○数学Bの角度を求める問題の平均正答率が24.1%であるが、県平均より4.3ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明問題は、解き方のパターンを覚えるために、穴埋め問題を多く取り入れていきたい。 ・展開図の面積や立体の体積、多角形の内角の和を求める問題に対して、問題図と式をしっかりと対応させて解かせるようにする。 ・これから学習する円周角の問題は、様々なパターンに対応できるように、多くの問題に取り組ませ、解く喜びを感じさせる。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●数学Aの平均正答率が52.6%で、県平均より4.9ポイント低い。これは、関数の意味の理解、比例式に関する設問の平均正答率が県平均より5ポイント以上、反比例のグラフの理解に関する設問の平均正答率が28.4%で県平均より14.7ポイント低いことが原因であると考えられる。 ○速さに関する問題をグラフと関連させて考えさせる設問の平均正答率が、県平均よりもわずかながら高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大問1に出題されるような式を求める基礎的問題を、計算問題演習の中に織り交ぜて解かせるようにする。 ・関数の基礎となる比例、反比例について、また、1次関数について、ことば、式、表、グラフの形状をしっかりと関連づけさせる。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●数学Aの平均正答率が51.9%で、県平均より7.6ポイント低い。これは、相対度数を求める問題、樹形図を使って確率を求める問題の平均正答率が、県平均より8ポイント程度低いからである。特に、ヒストグラムから中央値を求める問題の平均正答率は、県平均より12.5ポイント低い。 ○不確定な事象の起こりやすさについて説明する問題の平均正答率が34.5%で、県平均より3.5ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数同様、基礎的な単発問題を研鑽演習時に取り入れることにより、問題に接する機会を増やすように努める。 ・表を読み取ったり、平均を求めることは、数学の授業以外でも活用できるため、その機会をうまく捉えて理解に結びつけさせたい。 ・全ての場合をきちんと書き出す訓練をする。

宇都宮市立 宝木中学校 第3学年 生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 「将来の夢や希望をもっていますか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合は81%で、全国平均より9.6ポイント高い。
- 「普段のテレビ類視聴時間」の質問に対しては、4時間以上の生徒と1時間未満の生徒の割合が共に県平均、全国平均よりも多くなっている。特に、1時間未満の生徒の割合は、全国平均より9.7ポイント高い。
- 「普段の携帯電話、スマホの使用時間(ゲームを除く)」の質問に対し、30分未満の生徒の割合が22.4%で県平均より8.3ポイント高くなっている。
- 「学習塾で勉強していますか」の質問に対し、予習的な内容を中心に学習している生徒よりも学校の勉強でよくわからなかった内容を学習している生徒の割合が高くなっている。これは、県平均、全国平均と逆の傾向である。
- 「休日の読書のために図書館に行くか」の質問に対し、週4回以上行く生徒の割合が6.9%で県平均より4.7ポイント高い。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」の質問に対し、している生徒の割合が22.4%で県平均より6.5ポイント高い。
- 「学校生活での悩みの相談相手」の質問に対し、先生と答えた生徒の割合が6%で、県平均より2.6ポイント高い。
- 「地域社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるか」の質問に対し、肯定的回答の生徒が40.5%で、全国平均より9.3ポイント高い。
- 「友達との約束を守っているか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合が97.4%で、全国平均よりわずかに高い。
- 「国語の勉強は好きですか」の質問に対し、当てはまる生徒の割合が27.6%、「国語の勉強は大切だと思うか」の質問に対し当てはまる生徒の割合が58.6%で、どちらも全国平均より6ポイント程度高い。
- 「国語の調査時間は十分だったか」の質問に対し、AB共に肯定的回答の生徒の割合が、全国、県平均より若干高い。
- 「数学の学習内容が普通の生活で活用できないかどうか考えるか」「数学の学習内容が将来役に立つと思うか」の質問に対し当てはまると回答した生徒の割合が、それぞれ19%、45.7%で、どちらも県平均、全国平均より5ポイント程度高い。
- 「数学Bの調査時間」に関する質問に、十分だった、ちょうどよかったと回答した生徒の割合が83.6%で、県平均より8.3ポイント高い。全く足りなかったと回答した生徒の割合も1.7%で、県平均より2.4ポイント低い。

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対し、あまりしていない、全くしていない合計が12.1%で、県平均の2倍以上の値である。
- 「就寝時刻」に関する質問に対し、毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合が68.1%で、県平均より6.9ポイント低い。
- 「起床時刻」に関する質問に対し、毎日同じくらいの時刻に起きている生徒の割合が87.9%で、県平均より5.2ポイント低い。
- 「失敗を恐れないで挑戦するか」の質問に対し、否定的回答の生徒の割合が38.7%で県平均より12.7ポイント高い。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合は、県平均、全国平均とほとんど差は無いが、「当てはまる」と自信を持って答えた生徒の割合は県平均より14.7ポイント低くなっている。
- 「平日の1日の勉強時間(授業は除く)」の質問に対し、3時間以上の生徒の割合が11.2%で県平均より3.2ポイント高いが、0分も含め30分未満の生徒の割合が18.1%で、県平均より5.9ポイント高くなっている。
- 「休日の1日の勉強時間」の質問に対しても、4時間以上の生徒の割合が8.6%で県平均より3.7ポイント高いが、全くしないと答えた生徒の割合が17.2%と県平均より9ポイントも高くなっている。
- 「普段の1日の読書時間」の質問に対し、全くしない生徒の割合が54.3%で、県平均より25.3ポイントと圧倒的に高い。
- 「(兄弟を除く)家の人と学校の出来事について話すか」の質問に対し、全くしていない生徒の割合が12.9%で県平均より7.3ポイント高い。よく話す生徒の割合は31.9%で県平均より12.2ポイント低い。
- 「(兄弟を除く)家の人が学校行事に来るか」の質問に対し、よく来ると回答した生徒の割合が46.6%で県平均より22.6ポイント高く、全く来ないと回答した生徒の割合は7.8%で県平均より6ポイント高い。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問に対し、否定的回答の生徒の割合が28.4%で県平均より17.5ポイント高い。
- 「家で学校の復習をしていますか」の質問に対しても、否定的回答の生徒の割合が51.8%で県平均より13.3ポイント高い。
- 「学校に行くのは楽しいか」の質問に対し、そう思う生徒の割合が27.6%で県平均より23.5ポイント低い。
- 「地区の行事に参加しているか」の質問に対し、していない生徒の割合が43.1%で県平均より19.2ポイント高い。
- 「ニュースを見ますか」の質問に対し、ほとんど、全く見ない生徒の割合が11.2%で、県平均より6.7ポイント高い。
- 「学校の規則を守っていますか」の質問に対し、否定的回答の生徒の割合が12.1%で、県平均より6.1ポイント高い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか」の質問に対しては、肯定的、否定的回答共に県、全国平均と変わらない値であるが、どちらかといえば当てはまる、どちらかといえば当てはまらない生徒の割合が若干多くなっている。
- 「総合的な学習の時間に取り組んでいるか」の質問に対し、否定的回答の生徒の割合が51.2%で県平均より19.6ポイント高い。「発表の機会があるか」の質問に対しても、否定的回答の生徒の割合が27.6%で県平均より10.6ポイント高い。
- 「1000字程度の感想文や説明文を書くこと」の質問に対し、難しいと思う生徒の割合が46.6%、「授業で考えを説明したり文章に書くこと」に質問に対し、難しいと思う生徒の割合が35.3%で、どちらも全国平均より10ポイント程度高い。
- 「読書は好きですか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合が52.6%で、県平均より23.2ポイント低い。
- 「数学の授業の内容がよく分かるか」の質問に対し、肯定的回答の生徒の割合が63.8%で、県平均より10.5ポイント低い。
- 「数学で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」「数学の公式やきまりの根拠を理解しようとしているか」の質問に対し、当てはまらない生徒の割合がそれぞれ12.1%、10.3%で、県平均より5ポイント程度高い。